

—わがまち歴史探訪、足もとの文化遺産への誘い—
ミュージアム都留からのお知らせ

甲州俳諧展 —甲州俳諧の展開—

今回の甲州俳諧展では、甲州俳諧の全貌を見渡していきます。

江戸時代の天和・貞享年間(1681~87年)、国中地域に門弟を擁した江戸俳人・



松尾芭蕉

(氷面鏡九十四人集より)

岸本調和の支援のもとに、甲州最初の俳書『俳諧白根嶽』が刊行されました。対して郡内には、天和3年(1683年)に松尾芭蕉が来訪し、まったく別種の文学が甲斐に開花します。

基本的に甲斐の俳諧は、山口素堂を鍵として展開していきますが、江戸時代中期の享保年間(1716~35年)には、その

一族の山口黒露が、甲州俳壇をリードしていきます。この縁から、黒露と親交のあった江戸俳人・佐久間柳居に連なる系列の俳人たちが、甲州に来訪し、その影響のもと、やがて幕末にかけて上矢敲氷らの活躍となって展開していきます。

『氷面鏡九十四人集』の編者・沈蛙窟連水など、幕末に谷村で活躍する俳人たちは、敲

氷の系列に属していました。同じころ、金沢の高桑蘭更や中京の加藤暁台に師事した五味一族の可都里・蟹守がもう一つの勢力となり、幕末から明治へと推移していきます。



山口素堂(俳人百家撰より)

会 期 12月2日(土)~平成19年1月21日(日)
開館時間 午前9時~午後4時30分
会 場 ミュージアム都留 第二展示室
休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日が休館)、
第3火曜日、祝日の翌日
※年末年始の休館日 12月29日(金)~1月3日(水)
観覧料 入館料 一般 300円(210円)
高・大学生 200円(140円)
小・中学生 100円(70円)
※()内は20名以上の団体料金
※チケットは増田誠美術館と共通券となっています。

問合先 ミュージアム都留 ☎(45)8008

★関連イベント

俳句かるた練習会 日 時 12月23日(土)午後1時~
場 所 ミュージアム都留

会 期 平成19年1月4日(木)~3月4日(日)
『歌人讃歌~増田画伯が描く万葉の歌人達~』
柿本人麻呂、紀貫之、山辺赤人、小野小町、紫式部など増田画伯が水彩画で描いた万葉の歌人たちをご覧いただきます。

次回企画展のお知らせ
※年末年始の休館日
12月29日(金)~1月3日(水)
休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日が休館)、第3火曜日、祝日の翌日
開館時間 午前9時~午後4時30分
会 場 増田誠美術館(ふるさと会館2階)
休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日が休館)、第3火曜日、祝日の翌日
※年末年始の休館日
12月29日(金)~1月3日(水)

増田誠美術館では未展示の作品を含め、新たに人物画の展示を行いました。増田画伯が描く様々な人物をお楽しみください。

増田誠美術館 ムッシュ増田の描く人物

勝山城のなぞに迫る!

今回は勝山城(お城山)の謎の1つである築城時期に焦点をあててみたいと思います。築城時期には諸説ありますが、大まかに小山田氏時代、浅野氏時代の二説があります。1つは16世紀中ごろに郡内を治めていた小山田氏が、金井に所在したとされる館を火事で失ったため、現谷村第一小学校付近に館を移したと伝えられており、その際に勝山城も築いたという説です。もう1つは江戸時代中ごろに記された書物「甲斐国誌」の記述にある、16世紀末に領主であった浅野氏重によって築城されたという説です。どちらの時代の書物にも勝山城に関連した記述はほとんどないため、実際いつの時代に築かれたのか確認するには、発掘調査による成果が大きいと考えられます。

現在行っている勝山城跡学術調査ですが、11月下旬より勝山城の発掘調査に入りました。

今回の調査は、勝山城跡の調査研究のほか、保護・保存を目的としているため、山全体の発掘を行うのではなく、試掘坑と呼ばれる部分的な穴をあけ、できるだけ勝山城跡にキズを付けずに、成果があげられるよう進めています。調査の進捗状況を見ながら現地見学会を開催する予定ですので、ぜひ、ご参加ください。詳しい日程などは広報「つる」にてお知らせします。

勝山城に関連した資料(谷村の町の村絵図など)をお持ちの方はミュージアム都留までご連絡ください。



中津森館跡周辺
発掘調査の様子